

1 単元名 筑西市を誰もが安心して暮らせる持続可能なまちにしよう

2 単元の目標

- (1) 筑西市に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさや課題が分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることやよりよいまちづくりのための課題を理解する。(知識及び技能)
- (2) 筑西市に関わる情報の中から問いを見出しその解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 筑西市に関わる探究的な学習に、主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための社会の在り方や行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①筑西市には、人口減少や少子高齢化などの問題や地域の特徴があることを、探究活動を通して理解している。	①筑西市の情報やその他の市町村の情報を基に、筑西市をよりよくするための問題点や課題を見いだしている。	①筑西市についてのよさや課題について探究的な学習に主体的に取り組む、他者と協力しながら課題を見出そうとしている。
②筑西市以外の市町村の特徴や取組について、収集した情報を活用して理解している。	②収集した情報を共有したり、共有した情報を活用したりして、情報を協働的に活用している。	②筑西市以外の市町村について関心を高め、筑西市を持続可能なまちにするための取組を考え実践しようとしている。
③筑西市の未来をよりよくするための取組について、短期的目標、中長期的目標など様々な視点で見いだす必要性があることを理解している。	③収集した情報をシンキングツールを用いて整理・分析し、筑西市の課題やそれらを解決する方法を考えている。 ④筑西市をよりよくするための取組を根拠を示して相手に説明している。	③よりよい未来の実現のために、学習を通して学んだことをこれからの生活に活かし、自らの理想の実現に向けてよりよいまちづくりに参画しようとしている。

4 探究的な学習における情報活用能力体系表

知識及び技能	I	端末等で写真や動画を編集し、分かりやすい資料作りに役立てることができる。
	II	収集したデータ等をフォルダに整理して保存し、協働で活用することができる。
	III	知りたいことを、本やインターネットなど複数の方法で調べ、比べて、必要な情報を判断することができる。
	IV	目的に応じて、端末等を活用して自分の考えを表現することができる。
	V	他者の考えと比較しながら目的や意図に応じて情報を整理し、より妥当な結論を導き出すことができる。
思考力、判断力、表現力等	I	見いだした問題に対して、多面的に調べ、目的や意図に応じて情報を整理し、必要なものを選んでまとめている。
	II	実験結果や資料から読み取った情報(数値など)を基に、表やグラフ、「考えるための技法(シンキングツール等)」に整理して新たな意味を見いだしている。
	III	表やグラフから必要な情報や数値を正確に読み取ったり、変化や傾向を読み取ったりして、情報を分析している。
	IV	複数のWeb ページから、情報源の信頼性を判断し、活用している。
	V	グループで話し合うときに、周りの意見も聞きながら質問し、自分の意見を述べている。
	VI	説明するとき等に資料や端末等を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。
	VII	情報を統合して論理立てて考え、目的や意図に応じて新聞やリーフレット、プレゼンテーション等にまとめて伝えている。
	VIII	複数の情報を比較して、根拠を挙げて自分なりの考えを提案している。

人 間 性 等 学 び に 向 か う	I	伝えたいことが、受け手の状況に応じてきちんと伝わっているか、自分の発表の仕方を振り返り、次に生かすようにしている。
	II	必要に応じて、記録や質問をしながら、話す人の言いたいことを共通点や相違点などを踏まえて捉え、自分の考えを形成し直そうとしている。
	III	自分とは違った視点で考えられた意見を取り入れ、新たに自分なりの考えを形成しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、生徒が探究的な学習活動を通して、筑西市が近年抱えている少子化の影響による人口減少や高齢者の増加、社会インフラの整備など様々な蓄積した問題について興味を抱き、地方活性化に取り組む必要性や重要性について理解を深め、それを解決していこうとする態度を育むことをねらいとしている。筑西市に住む人々が幸福感を味わい、共存・共栄していくためには、筑西市に生まれ、育った若者が地域に根付き、地域を活性化するために社会活動に参画しようとするのが大切であることに気付く必要がある。筑西市は、令和2年度の国勢調査の結果、人口減少数が茨城県で2番目に多く、出生数が伸び悩んでいる。また、市の財政指数が良好とはいえないデータが示されている。そこで、筑西市の課題を見付け、それらを解決するための提言書を作成することをねらいとして学習を行い、生徒が自ら筑西市をよりよくしようとする態度を育みたいと考えた。茨城県や他県の他の市町村に目を向け、筑西市以外の市町村の特徴や実際の取組を探究する。それらと筑西市の状況を比較し、筑西市に必要な取組を考え、提言書を作成する。そのため、単元を三つに分け、それらを三つの小単元で構成し、探究のプロセスを3年間で3回繰り返し、生徒の筑西市に対する愛着と筑西市をよりよくしようとする態度やそれらを実践しようとする態度を育む。また、社会科地理的分野「C日本の様々な地域（2）日本の地域的特色と地域区分」や社会科公民的分野「D私たちと国際社会の諸課題（2）」の学習内容と関連があり、3年間を通して、他教科と教科等横断的な視点で指導をしていきたいと考える。

(2) 生徒観

質問内容	実態			
	思う	大体思う	あまり思わない	思わない
将来、筑西市に住みたいですか。	**%	**%	**%	**%
探究的な学習で苦手だと感じる活動はどの活動ですか。	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
	**%	**%	**%	**%

本校の生徒は、半数以上が将来筑西市に住む可能性があると考えているが、*割以上の生徒が、将来筑西に住む可能性が低いと考えている。少子高齢化が進む本県、本市において、将来にわたり、筑西市に住みたいと思う子どもたちを育てることが重要な課題でもある。本単元では、グループで学習を行い、探究的な学習を通して筑西市の課題や特徴について理解を深め、それらを解決する手立てを考える力を育むことを目指している。しかし、探究的な学習において、「課題の設定」や「情報の整理・分析」、「まとめ・表現」が苦手であると感じている生徒も少なくない。そのために、主体的に探究的な学習に取り組むことができるように探究的な学習のための生徒用のガイドブックを作成し、それらを活用して授業に取り組ませたい。一人1台端末を有効的に活用するための手立てを充実させることで、生徒が積極的に探究活動に取り組むことができるようにしたい。

(3) 指導観

単元を実践するにあたり、第1学年では、茨城県内の市町村のデータを調べ、県内の市町村と筑西市を比較することで、筑西市のよい点や課題を見付ける。また、住みやすいまちとはどのようなまちなのかを考え、定義することで、筑西市の現状の違いを見付け、筑西の課題について分析する学習活動を行う。第2学年では、人口が減少することによる将来の課題を考察し、筑西市の未来を考える。また、人口が増加している市町村について調べることで筑西市の課題を考察し、それらを解決するために必要な取組を模索することで、筑西市をよりよくするための取組について考えようとする態度を育成したい。第3学年では、筑西市の総合計画について調べ、今での学習を通して身に付けたアイデアを基に、自分たちでさらに筑西市をよりよくするための取組を考える。シンキングツールを活用して考えた取組をブラッシュアップすることで、より現実的で実現可能な取組を提言書として作成させたいと考える。また、学習活動を充実させるために、探究的な学習に必要な生徒の情報活用能力を身に付けさせ、さらに身に付けた情報活用能力を発揮させるようにしたいと考える。そこで、探究的な学習における情報活用能力の体系表を活用し、3年間を通して学習をする中で、それらを育成し、各学年で学習し身に付けた既習事項を生かし、より具体的に課題を解決する取組を考えさせるようにしたい。探究的な学習を学年ごとに繰り返

し行うことで、生徒の思考を活性化させ、筑西市をよりよくしていこうとする態度と探究的な学習における情報活用能力を育成したいと考え本単元を構成した。

6 単元構想

(1) 1年生の活動 (10時間)

小単元 (探究のプロセス)	ねらい	評価基準			情報活用能力体系表			評価方法
		知技	思	態	知技	思	態	
筑西市の課題を見付けよう (課題の設定) (3時間)	- 筑西市や茨城県についての興味・関心を高めるために、筑西市や茨城県のシンボルについて調べる。 - 筑西市の特徴や課題について自分なりの考えをもつために統計データを活用して、筑西市のランキングを作成する。	①	①	①	Ⅲ	Ⅴ		- Forms - ワークシート
住みやすい街とは何か考えよう (情報の収集) (整理・分析) (4時間)	- 筑西市の農業、商業、産業、子育て、人口の増減、交通網等の現状を調べ、筑西の現状を知り、筑西市の特徴を考える。 - 筑西市の特徴について、「よい点」と「今後不安」の視点でシンキングツールを活用して分析する。	②	②			Ⅰ Ⅲ		- ワークシート - ワークシート - 自己評価の記述
住みやすい街についてまとめよう (まとめ・表現) (3時間)	- 筑西市の特徴を根拠を示してスライド資料にまとめる。 - 発表会を通して、筑西市の特徴について改めて考え、筑西市をよりよくしようとする態度を育む。		③	①	Ⅴ	Ⅶ Ⅵ	Ⅰ	- 作品 - 自己評価の記述

(2) 2年生の活動 (11時間)

小単元 (探究のプロセス)	ねらい	評価基準			情報活用能力体系表			評価方法
		知技	思	態	知技	思	態	
筑西市の課題を洗い出そう (課題の設定) (2時間)	魅力度ランキングが高い都道府県と茨城県を比較し、茨城県の課題について考察する。	①	①		Ⅲ	Ⅴ		ワークシート
筑西市の将来について考えよう (情報の収集) (整理・分析) (5時間)	- 人口が減少している市町村について調べ、過疎による影響を考える。 - 人口が増えている市町村を調べて共通していることを抽象化し筑西市と比較することで筑西市の課題が何かを考える。	②	②		Ⅱ Ⅴ Ⅰ	Ⅰ Ⅱ Ⅲ		- ワークシート - ワークシート - 自己評価の記述
筑西市の課題の解決方法を考えよう (まとめ・表現) (4時間)	- 筑西市をよりよい街にするためにグループで考えた筑西市の課題を解決する方法を考える。 - 他のグループの発表を聞き、多面的・多角的に筑西市をよりよくしようという態度を育む。	③	③	②		Ⅵ Ⅶ	Ⅲ Ⅰ	- 作品 - 自己評価の記述

(3) 3年生の活動 (16時間)

小単元 (探究のプロセス)	ねらい	評価基準			情報活用能力体系表			評価方法
		知技	思	態	知技	思	態	
他市町村の取組を調べよう (課題の設定) (3時間)	筑西市をよりよくするために、他市町村の総合計画を調べ、人口増加への解決の糸口を見付ける。			①	Ⅱ	Ⅲ		ワークシート

筑西市の取組を調べよう (情報の収集) (整理・分析) (8時間)	- 筑西市や茨城県の取組を調べ、他市町村と比較し、筑西市の総合計画の課題を洗い出す。 - 筑西市を改善する取組を考える。 - 考えた取組を実現可能か判断するために、シンキングツールを活用して分析する。	③	③	III	II	IV V VIII	- ワークシート - ワークシート - 自己評価の記述 ループリック評価
筑西市の課題の解決方法を考えよう (まとめ・表現) (5時間)	- グループで考えた取組の必要性や重要性について、根拠を示したプレゼン資料を作成する。 - 発表会を行い、グループの取組の独自性を伝え、さらに他のグループの発表を聞き、自分とは違った視点で考えられた取組を自分なりに評価した筑西市のよりよい未来を実現について考える。(本時)	④	③	IV	VI VII	III	- 作品 - 自己評価の記述 ループリック評価

7 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 (評：教科等の観点、情：情報活用能力の観点)						
導入 5分	1 今日の授業の活動の流れを知る。 筑西市を誰もが安心して暮らせる持続可能なまちにする取組を発表しよう。 各グループの発表時間等 ・発表 4分 ・質疑・応答 1分	・各グループごとに発表の役割分担を確認させる。 ・良い発表の仕方を掲示し、声の大きさや表情などに気を配らせ、相手に伝わりやすい発表になるように指導する。						
展開 35分	2 グループごとに、作成したスライドを活用して発表する。 ・他のグループの発表を聞き評価をする。 ☆発表の仕方のポイント <table><tr><td>声の大きさ</td><td>・自信をもってはっきり話す ・声が聞こえない発表はつまらない</td></tr><tr><td>声の高さ</td><td>・声に抑揚をつけると良い ・ワントーン上げて話すとうるさく聞こえる ・低いトーンで話す落ち着いた感じが聞こえる</td></tr><tr><td>話すスピード</td><td>・速すぎると聞き取ることができない ・大切なところでは、ゆっくり話すと良い ・緊張すると速くなることが多いので気を付ける</td></tr></table>	声の大きさ	・自信をもってはっきり話す ・声が聞こえない発表はつまらない	声の高さ	・声に抑揚をつけると良い ・ワントーン上げて話すとうるさく聞こえる ・低いトーンで話す落ち着いた感じが聞こえる	話すスピード	・速すぎると聞き取ることができない ・大切なところでは、ゆっくり話すと良い ・緊張すると速くなることが多いので気を付ける	・他のグループの発表を評価する時に、一貫性のある相互評価ができるように評価のポイントを示すようにする。 ・他のグループの発表において、参考になる提言等をメモさせるようにする。 ・他のグループの発表の評価をさせることで、自分たちの発表との違いを比較し、自分とは、違った視点で考えられた意見を取り入れ、新たに自分なりの考えを形成させるようにする。 情思Ⅶ：自分とは違った視点で考えられた意見を取り入れ、新たに自分なりの考えを形成しようとしている。 【自己評価シート】
声の大きさ	・自信をもってはっきり話す ・声が聞こえない発表はつまらない							
声の高さ	・声に抑揚をつけると良い ・ワントーン上げて話すとうるさく聞こえる ・低いトーンで話す落ち着いた感じが聞こえる							
話すスピード	・速すぎると聞き取ることができない ・大切なところでは、ゆっくり話すと良い ・緊張すると速くなることが多いので気を付ける							
まとめ 10分	3 どのグループがもっともよいアイデアで、説得力のある発表なのかを投票を行い、共有する。 (1) Forms に投票する (2) 結果を共有する 4 本時の探究的な学習活動について自己評価を行い振り返りをする。 振り返りの指標 他のグループの発表を聞き、自分たちが気付かなかった提言や根拠を知り、改めて、筑西市をよりよくするためにできることを今後の生活で取り組もうとする態度が見られる。	・Formsを活用し、発表の評価の基準を参考にし、他のグループの評価を行わせるようにする。 評態③：筑西市をよりよくするための取組を根拠を示して相手に説明し、発表会を通して学んだことを、自らの理想の実現に向けてよりよいまちづくりに参画しようとしている。 【自己評価シート】 ・探究のサイクルの振り返りをするために、ルーブリック評価をFormsで行うようにする。						